ＤＸ審査支払機構・国保統一事例

【　手術　】

９００　組織代用人工繊維布（自動縫合器対応用）（腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術時）の算定について

《令和８年１０月３０日》

○　取扱い

Ｋ719-３腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術に対する組織代用人工繊維布（自動縫合器対応用）の算定は、原則として認められる。

○　取扱いを作成した根拠等

結腸は解剖学的に右側結腸の血流は上腸間膜動脈、左側結腸は下腸間膜動脈より分枝動脈から辺縁動脈を形成して末端の結腸へ供給されるが、その走行には変異（個人差）があり、いくつかのバリエーションが存在する。

結腸切除術（悪性腫瘍手術）では３群リンパ節郭清のため腫瘍の栄養血管根部で同血管を結紮切離するが、残存結腸の血流は別の主幹動脈分枝から辺縁動脈を経て供給されることになり、切除部位によっては吻合対象となる結腸の辺縁動脈の血流が減少し、結腸吻合部縫合不全のリスクが高まる。

結腸は側副血行路がなく、虚血に陥りやすい臓器であり、吻合・縫合不全のリスクを回避するには吻合部結腸の血流の維持が重要であるが、さらに吻合・縫合部の補強は吻合・縫合不全のリスク低下に有効と考えられる。

以上のことから、Ｋ719-３腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術に対する組織代用人工繊維布（自動縫合器対応用）の算定は、原則として認められると判断した。